

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2024年6月28日
【事業年度】	第76期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
【会社名】	R S Kホールディングス株式会社
【英訳名】	RSK Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 物部 一宏
【本店の所在の場所】	岡山市北区丸の内二丁目1番3号
【電話番号】	岡山（086）225-5225番
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理局长 長原 正明
【最寄りの連絡場所】	岡山市北区丸の内二丁目1番3号
【電話番号】	岡山（086）225-5225番
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理局长 長原 正明
【縦覧に供する場所】	該当ありません

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高 (千円)	8,826,777	7,845,569	8,575,469	8,080,596	8,216,808
経常利益又は経常損失( ) (千円)	863,898	414,990	119,445	105,454	295,731
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( ) (千円)	572,195	1,258,033	183,728	14,016	406,126
包括利益 (千円)	650,521	808,435	274,623	65,263	1,427,139
純資産額 (千円)	23,803,734	24,582,170	24,253,546	24,158,283	25,540,423
総資産額 (千円)	26,276,246	27,368,548	26,391,677	25,987,061	27,813,768
1株当たり純資産額 (円)	39,672.89	40,970.28	40,422.57	40,263.80	42,567.37
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( ) (円)	953.65	2,096.72	306.21	23.36	676.87
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	90.5	89.8	91.8	92.9	91.8
自己資本利益率 (%)	2.4	5.2	-	-	1.6
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,255,832	411,103	53,388	2,257,803	793,829
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,094,510	404,293	2,451,259	311,763	857,719
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	44,136	35,271	58,426	45,607	49,776
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	7,368,452	8,148,578	5,692,281	7,592,712	7,479,045
従業員数 (人)	273	270	270	256	254
[外、平均臨時雇用者数]	[10]	[6]	[6]	[6]	[6]

(注) 1. はキャッシュ・フローの支出超過を示しております。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第74期及び第75期の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

4. 当社株式は非上場銘柄のため、株価収益率は記載しておりません。

5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第74期の期首から適用しており、第74期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を適用した後の数値となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高又は営業収益 (千円)	545,442	819,739	811,254	924,379	894,984
経常利益 (千円)	201,487	367,687	42,960	117,313	173,936
当期純利益 (千円)	140,020	1,438,378	32,303	130,042	292,613
資本金 (千円)	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
発行済株式総数 (株)	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
純資産額 (千円)	22,393,312	23,080,520	22,955,215	23,066,119	24,009,822
総資産額 (千円)	23,270,199	24,233,741	23,582,703	23,713,300	24,885,990
1株当たり純資産額 (円)	37,322.18	38,467.53	38,258.69	38,443.53	40,016.37
1株当たり配当額 (円)	50	90	50	75	50
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	233.36	2,397.29	53.83	216.73	487.69
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	96.2	95.2	97.3	97.2	96.4
自己資本利益率 (%)	0.6	6.3	0.1	0.5	1.2
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	21.4	3.7	92.8	34.6	10.2
従業員数 (人)	6	6	5	6	5
[外、平均臨時雇用者数]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
(比較指標：-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	-
最低株価 (円)	-	-	-	-	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価については、当社株式は非上場でありますので記載しておりません。

3. 第73期の1株当たり配当額には、新社屋開業記念配当25円を含んでおります。

4. 第75期の1株当たり配当額には、創立70周年記念配当25円を含んでおります。

5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第74期の期首から適用しており、第74期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 2【沿革】

- 1953年4月 山陽放送株式会社創立（中国銀行3階に仮事務所を開設、代表取締役社長谷口久吉、資本金5,000万円）
- 9月 岡山市東中山山下天満屋別館に本社開設
- 10月 ラジオ本放送を開始（ラジオ記念日）
- 1954年9月 岡山市浜野のラジオ送信所の遠隔操作開始
- 1958年2月 山陽映画株式会社設立
- 6月 テレビ本放送開始（テレビ記念日）
- 1961年7月 資本金を3億円に増資
- 1962年6月 本社を現在地（岡山市北区丸の内2-1-3）へ新築移転（放送会館落成）
- 6月 岡山市郡のテレビ送信所を無人化
- 10月 株式会社山陽放送サービス設立
- 1963年12月 財団法人山陽放送学術文化財団設立
- 1966年4月 テレビのカラー放送開始
- 9月 ラジオ送出の全日無人化完成
- 1970年3月 ラジオ送信所を岡山市撫川に移転運用開始
- 1972年6月 株式会社アール・エス・ケイ・ランド設立
- 1974年5月 R S Kバラ園オープン
- 1977年1月 ラジオ24時間放送スタート
- 1980年2月 テレビ音声多重放送開始
- 7月 同期放送による全ラジオ局の一波運用開始
- 1983年3月 R S Kメディアコムオープン
- 1987年10月 ラジオ出力10kwに増力
- 1992年10月 A Mステレオ放送開始
- 2001年4月 テレビアナログ方式データ放送開始
- 2006年12月 テレビデジタル放送開始
- 2011年7月 テレビアナログ放送終了
- 2015年6月 株式会社山陽放送サービスが株式会社アール・エス・ケイ・ランドを吸収合併
- 2016年10月 山陽映画株式会社が株式会社R S Kプロビジョンに社名変更
- 2018年5月 山陽放送分割準備株式会社設立
- 2019年4月 認定放送持株会社に移行し、R S Kホールディングス株式会社に社名変更  
山陽放送分割準備株式会社がR S K山陽放送株式会社に社名変更  
株式会社山陽放送サービスが株式会社R S Kサービスに社名変更  
会社分割の方式により、放送事業をR S K山陽放送株式会社に承継
- 2020年7月 R S Kイノベティブ・メディアセンターを岡山市北区天神町に新築
- 2021年6月 R S K山陽放送株式会社により、R S Kイノベティブ・メディアセンターよりテレビ放送開始
- 2023年4月 R S K山陽放送株式会社により、R S Kイノベティブ・メディアセンターよりラジオ放送開始

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、連結子会社3社及び非連結子会社1社で構成され、ラジオ・テレビの番組及びCMの販売等の放送事業、映像事業、サービス事業、不動産事業等の事業活動を行っております。

また、放送事業において連結子会社であるRSK山陽放送株式会社は、株式会社TBSテレビ及び株式会社TBSラジオとネットワーク協定を締結しております。

当社グループの事業に係わる位置づけ及びセグメント情報との関連は次のとおりであります。

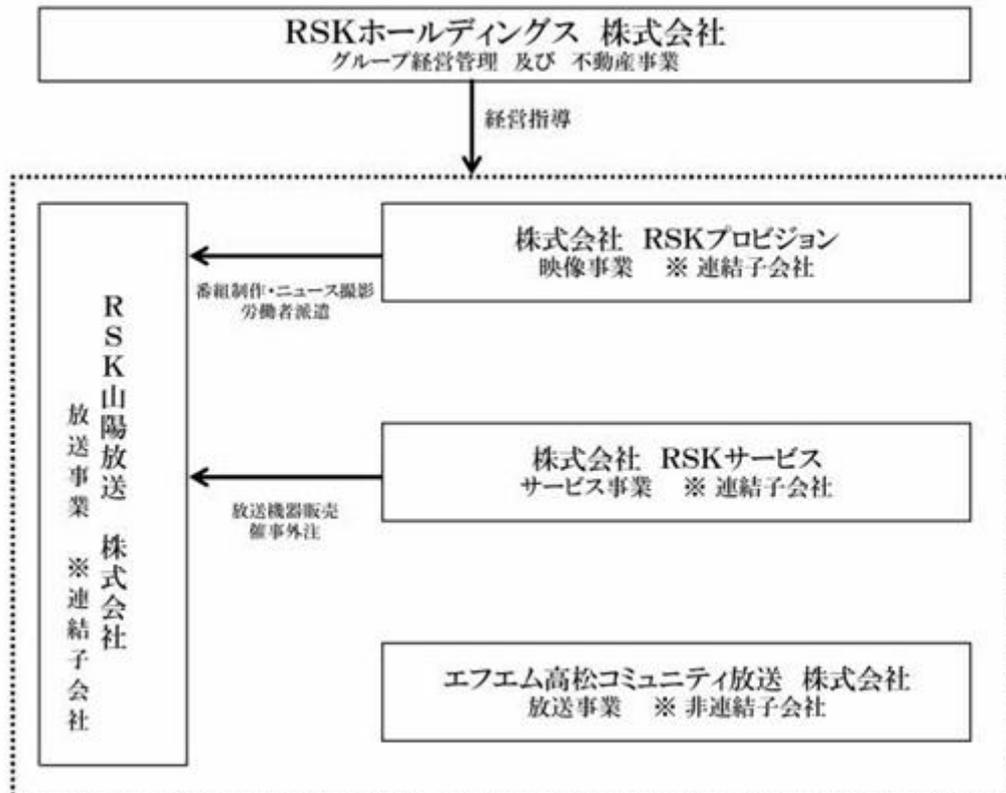
放送事業：子会社RSK山陽放送株式会社はラジオ、テレビの放送時間の販売と番組の制作ならびに販売等を営んでおります。

映像事業：子会社株式会社RSKプロビジョンは記録・PR映画の制作等を営んでおります。

サービス事業：子会社株式会社RSKサービスはコンピューターソフト開発、イベント企画制作、バラ園事業等を営んでおります。

不動産事業：当社は不動産賃貸事業を営んでおります。

事業の系統図は次のとおりであります。



## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) R S K山陽放送株式会社 (注2)(注4)	岡山市北区	100,000	放送事業	100.0	不動産賃貸・経営管理 業務委託 役員の兼任：7名
(連結子会社) 株式会社R S Kプロビジョン (注2)	岡山市北区	40,000	映像事業	100.0	不動産賃貸・経営管理 役員の兼任：5名
(連結子会社) 株式会社R S Kサービス (注5)	岡山市北区	25,000	サービス事業	100.0	不動産賃貸・経営管理 業務委託 役員の兼任：5名

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当します。

3. 上記会社はいずれも有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

4. R S K山陽放送株式会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	6,849,389千円
	(2)経常利益	237,041千円
	(3)当期純利益	239,958千円
	(4)純資産額	7,203,734千円
	(5)総資産額	8,075,360千円

5. 株式会社R S Kサービスについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	1,029,706千円
	(2)経常利益	29,056千円
	(3)当期純利益	19,703千円
	(4)純資産額	688,812千円
	(5)総資産額	963,207千円

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2024年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
放送事業	135	[ 6 ]
映像事業	67	[ - ]
サービス事業	47	[ - ]
不動産事業	2	[ - ]
全社(共通)	3	[ - ]
合計	254	[ 6 ]

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員数を外数で記載しております。  
2. 不動産事業として記載している従業員は放送事業を兼務する従業員が含まれております。  
3. 従業員数は就業人員であり、使用人兼務役員を含んでおりません。

### (2) 提出会社の状況

2024年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数	平均年間給与(千円)
5	48	24年10ヶ月	10,119

セグメントの名称	従業員数(人)	
不動産事業	2	[ - ]
全社(共通)	3	[ - ]
合計	5	[ - ]

- (注) 1. 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員数を外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 従業員数は、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。  
4. 従業員数は就業人員であり、使用人兼務役員を含んでおりません。

### (3) 労働組合の状況

特に記載すべき事項はありません。

### (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率

#### 連結子会社

R S K山陽放送(株)	当事業年度	
	管理職に占める女性労働者の割合(%) (注1)	男性労働者の育児休業取得率(%) (注2)
	13.5	33.3

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(2015年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。  
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(1991年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(1991年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。  
「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(2015年法律第64号)における労働者の男女の賃金の差異につきましては、当社及び連結子会社のいずれも公表していないことから記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社グループは、グループ各社が一丸となりメディアの使命を果たし、「地域社会に対してどこまでも誠実な奉仕に徹する」という創業の精神の下、経営基盤の強化を図ることで、グループ全体の企業価値の向上に努めてまいります。

#### (2) 経営環境及び経営戦略等

当期のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会経済活動の正常化が進み、企業業績も大企業を中心に価格上昇や外需要因により収益性が向上し、日経平均株価も34年ぶりに最高値を更新するなど景気拡大局面とみられます。一方、継続的な物価の上昇による消費の減速懸念や不安定な為替相場など、依然として日本経済は先行き不透明な状況にあります。

そのような状況の下、2023年(暦年)の日本の総広告費(電通調)は前年に比べ3.0%増で、1947年に推定を開始して以降最高の7兆3,167億円となり3年連続での増加となりました。しかしながら、インターネット広告費が前年比7.8%増と堅調な一方で、ラジオ広告費は前年比0.9%増に留まり、テレビ広告費は前年比3.7%減という推定値となりました。こうした中、当社グループの中核事業である放送事業は、創立70周年事業として各種催事や特別番組の放送などを実施しました。その結果、放送事業を取り巻く厳しい環境下であっても放送事業セグメントにおいて前年比1.1%増の売上を確保し、黒字転換することができました。

当社グループは、引続きグループ内で連携した事業展開を行い、更なる事業の深化や保有資産の有効活用が必要と考えています。グループ各社の連携を強化し、コンテンツ制作を中心に取り組むべき新規事業も研究し、グループ利益の最大化を図るとともに、地域社会への貢献と持続的な成長に努めてまいります。

#### (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループの中核事業である放送事業、特に地上波放送局は業界をあげて放送の信頼性や広告の有効性をアピールすると同時に、視聴スタイルの変化に応じた番組づくりを行い、地域のニーズに即した情報発信を継続していかなければなりません。また、インターネット空間においても、放送局制作の信頼あるコンテンツの需要が高まっており、JNN系列の統合ニュースサイト「NEWS DIG」などを通じた地域情報の全国配信により、ページビューを伸ばして収入増につなげていきます。また、放送業界は負担となっている設備投資に関して、個社の取組みに加え業界全体での協調や、NHKとの連携を模索しています。JNN系列内においても次世代マスター、営放システムの検討やニュース基金改革の議論が進行しており、放送業界の変革に対応していく必要があります。

次にコーポレートガバナンスの強化についてです。国内では自動車業界の不正や大手芸能事務所の不祥事が表面化し、放送業界においても金銭横領や他局ニュースの不正引用が発覚するなど、内部統制や企業統治のあり方が問われています。当社グループは、引続きコーポレートガバナンスの強化により不正を防止し、企業コンプライアンスを遵守して、株主、視聴者、聴取者、取引先など全てのステークホルダーから信頼され続ける企業グループを目指していきます。

当社においては、長期にわたる資産価値の維持向上と安定収益が見込める賃貸不動産物件の購入、放送事業にも有効に作用する有価証券の保有について、十分なりリスク考慮を行った上で取り組み、利益確保を図ってまいります。

#### (4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、売上高経常利益率を経営上の重要な指標として認識しております。当社グループの収益の核となる放送事業において、今後の大幅な売上高の増加が想定しにくい中、事業の効率化を進め保有資産の有効利用を図り、経常利益率の向上を目指すことで、安定した収益確保に努めてまいります。

### (5) 当面の対処すべき課題の内容、対処方針並びに具体的な取組状況等

当社の主業務は、グループ各社の経営管理並びに不動産賃貸業であります。2023年度には2件の収益不動産を購入したほか有価証券の購入も積極的に行うなど、リスクを慎重に見極めつつ保有資産を新たな投資へと振り分け、経営基盤の強化に取り組んでおります。また、当社役員がR S K山陽放送、R S Kプロビジョン、R S Kサービスの代表取締役を兼務することにより、これまで以上にグループ間の連携強化を図ることで事業の効率化を進めてまいります。

グループの中核事業を担うR S K山陽放送は、2023年4月にラジオ部門が新社屋である「R S Kイノベティブ・メディアセンター」に移転し、再びテレビ部門と同じ拠点から発信することとなり、ラジオ・テレビ兼営局としての強みをより生かしやすい環境が整いました。日本民間放送連盟賞番組部門ラジオエンターテインメント種目優秀賞を受賞した「O K Y A A M A ! ~大都会オカヤマな夜~」、1989年よりブラッシュアップを続けながら30年以上にわたりグルメをはじめとする地域情報を、ゴールデンタイムで放送しているテレビ番組「V O I C E d e G O !」など、地域に根差した情報発信を継続して行っています。放送以外の分野においても2024年度は、「石村嘉成展」「ガラスの創造力 - 色彩と煌めきの4,000年 - 展」「大シルクロード展」などを開催予定であり、地域に良質な文化活動を提供していきます。こうした活動を通して、メディアグループとしての存在感をより一層高めてまいります。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのコンプライアンス憲章においても謳っているように、当社グループは放送文化の担い手として、また地域の情報発信基地として、放送並びに事業活動を通じて持続的に地域社会に貢献することを企業理念としております。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) ガバナンス

当社グループ全体は放送事業を中心とする公共性の高い企業グループとして、長期にわたり持続的、安定的な経営基盤を確保していくことを企業目標としています。公共性の担保を図るために、コンプライアンス体制の強化を図るとともに、内部統制システムを構築しております。また、財務報告に係る内部統制は、当社グループとして重視すべき経営課題の一つとして認識しており、財務諸表の作成及び開示のプロセスに関して、内部統制の実施、評価を適切に行うとともに、その有効性を確認しています。

### (2) 戦略

#### メディアとしての取組

当社はS D Gメディアコンパクトに加盟しており、当社グループにおいては「瀬戸内から未来へ」をコンセプトに、美しい海を未来に残す活動を行っております。キービジュアルとして策定したイロトリドリの魚たちが描く円には、一人一人の意識・行動が同じ目標に向かうことでよい連鎖が持続・循環していくというメッセージを込めております。具体的な活動としては、ごみ拾いアプリ“ピリカ”を利用し、グループ社員のみでなく、視聴者、スポンサーを巻き込み、いつ、誰が、どれだけのごみを拾ったかを見える化し、その量に応じて植樹活動も行っております。陸と海の両方を永続的に豊かに循環させることで、美しい瀬戸内を未来へ繋げるべく主体的に取組む一方で、そのような活動を放送という当社グループの資産を用いて、一般視聴者への啓蒙活動を継続してまいります。また、その一環として自社制作の帯番組においては、放送区域内のS D G s活動に積極的に取り組む学校や企業を紹介するコーナーを設け、動画サイトにてアーカイブも配信しております。

#### 人材の育成及び社内環境整備に関する方針

当社グループ、特にその中核となるR S K山陽放送株式会社においては、アナウンサーや技術職など専門性の高いポジションがある一方で、それらの部門も含めてジョブローテーションを行っています。また、従業員自身が異動希望を申告できる制度を設定し、個々の適性・能力に合わせた人材の育成が可能な環境を整備しております。

### (3) リスク管理

当社グループでは気候変動や大規模災害、感染症のパンデミック等のリスクに対し、B C Pを策定しリスク管理をしております。また、気候変動により多発する集中豪雨等による停電に備え、受電設備及び配線の二重化、非常用発電機、無停電電源装置を配備することで電力の信頼性を確保し、発電機は3日間稼働可能な燃料を備蓄しております。その他、事業の根幹に関わる放送機能の継続に関わるマスターラック室、サブラック室、電気諸室、スタジオ等の重要エリアの空調設備は100%バックアップ機器の設置、もしくは50%×2台の機器設置とし、機器故障時の対策を行っております。

#### (4) 指標及び目標

人材の育成及び社内環境整備に関しては「(2)戦略」で述べたことを主として実施しており、当社においては平均勤続年数24年10ヶ月、中核会社であるR S K山陽放送株式会社においても18年11ヶ月と高い定着率を実現しております。女性管理職比率、男性育児休暇取得率ともに高い水準とはいえませんが、前者は近年上昇傾向にあり、後者も積極的な取得を呼びかけた結果、数値の改善が見られております。

### 3【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財務状況等に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主なリスクには以下のものがあります。本項においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末日（2024年3月31日）現在において判断したものであります。

当社グループは、放送事業を柱に様々な事業を展開しておりますが、以下に示したものをはじめとする多様な要因により、経営戦略どおりの成果が得られない可能性があります。

#### (1) 放送継続のための設備投資

当社グループでは、放送継続のための設備投資を継続して行っております。当連結会計年度において放送事業セグメントでは機械装置を中心に3億3,389万円の投資を行っており、同セグメントにおいて5億7,570万円の減価償却を行っております。また、不動産事業においては当社及びR S K山陽放送株式会社における新社屋の開業により、多額の減価償却費の計上を行っております。当社グループでは、計画的な設備投資を行うことでリスクの低減を図っております。

#### (2) デジタル・インターネット時代の競合

デジタル技術は、インターネットとの融合、B Sデジタル放送などとの多チャンネル競合等、全く新しい事業環境を出現させています。また、情報端末の高機能化、デジタルコンテンツの増加、I o T等の普及によりラジオ・テレビ媒体の優位性・価値に影響を与えることで、視聴率の低下や広告収入の減少等を招き、当社グループの収益性を低下させ、業績と財務状況に悪影響を与える可能性があります。

#### (3) 業界動向及び競合等

映像事業やサービス事業におきましては、依然として同業他社との過当競争による制作単価の下落や地方自治体の予算の縮小化が続いており、これらの要因の動向によっては、当社グループの商品やサービスに急速な陳腐化や、売上の低下を招き、業績と財務状況に悪影響を与える可能性があります。

当社グループでは、事業の多角化を行う一方で、その中から収益を生み出す部門への選択と集中を行うことで、全体の収益、財務状況の安定化を図っております。

#### (4) 災害等に関するリスク

当社グループの放送区域下に甚大な被害をもたらした2018年7月の西日本豪雨災害のように、気候変動による自然災害の発生は、当社グループの経営活動に必要なインフラ、施設、ネットワーク等に悪影響を及ぼす可能性があります。さらに、人的被害があった場合など、当社グループの正常な業務遂行を困難とする状況等が生じた場合、業績及び財務状況に重大な影響を与える可能性があります。

当社グループでは、放送事業の継続を最重要視しており、送信機材の二体制化、本社は強固な地盤かつ高台である立地を選定するなど、災害に対するリスクの抑制に最大限努めております。

#### (5) 法的規制等

当社グループの行う事業は放送法や電波法等の法的規制を受けております。法律の改正等がある場合は当社の業績に影響を受ける可能性があります。

## 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という）の状況の概要は以下のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当期のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会経済活動の正常化が進み、企業業績も大企業を中心に価格上昇や外需要因により収益性が向上し、日経平均株価も34年ぶりに最高値を更新するなど景気拡大局面とみられます。一方、継続的な物価の上昇による消費の減速懸念や不安定な為替相場など、依然として日本経済は先行き不透明な状況にあります。

そのような状況の下、2023年(暦年)の日本の総広告費(電通調)は前年に比べ3.0%増で、1947年に推定を開始して以降最高の7兆3,167億円となり3年連続での増加となりました。しかしながら、インターネット広告費が前年比7.8%増と堅調な一方で、ラジオ広告費は前年比0.9%増に留まり、テレビ広告費は前年比3.7%減という推定値となりました。こうした中、当社グループの中核事業である放送事業は、創立70周年事業として各種催事や特別番組などを実施しました。その結果、放送事業を取り巻く厳しい環境下であっても放送事業セグメントにおいて前年比1.1%増の売上を確保し、黒字転換することができました。

この様な環境のもと、当社グループの財政状態は、資産合計は278億1,376万円となり前連結会計年度に比べ18億2,670万円(7.0%)の増加、負債合計は22億7,334万円となり前連結会計年度に比べ4億4,456万円(24.3%)の増加、純資産合計は255億4,042万円となり前連結会計年度に比べ13億8,213万円(5.7%)の増加となりました。

当社グループの経営成績は、売上高は82億1,680万円と前連結会計年度に比べ1億3,621万円(1.6%)の増収となりました。一方、営業費用(売上原価と販売費及び一般管理費の合計)は、減価償却費の減少等により79億6,673万円と前連結会計年度に比べ2億6,388万円(3.2%)の減少となりました。この結果、営業利益は2億5,007万円(前連結会計年度は1億5,002万円の営業損失)、経常利益は2億9,573万円(前連結会計年度は1億545万円の経常損失)、税金等調整前当期純利益は4億6,446万円(前連結会計年度は1億787万円の税金等調整前当期純損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は4億612万円(前連結会計年度は1,401万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### a. 放送事業

ラジオ部門は前連結会計年度に比べ2,547万円(4.1%)の減収、テレビ部門は前連結会計年度に比べ1億18万円(1.6%)の増収となりました。全体の売上高は67億4,926万円と前連結会計年度に比べ7,508万円(1.1%)の増収、営業利益は2億3,056万円(前連結会計年度は8,130万円の営業損失)となりました。

#### b. 映像事業

映像事業の売上高は4億6,554万円と前連結会計年度に比べ5,691万円(10.9%)の減収となり、営業利益は588万円と前連結会計年度に比べ1,141万円(65.9%)の減益となりました。

#### c. サービス事業

サービス事業の売上高は8億7,101万円と前連結会計年度に比べ1億1,658万円(15.4%)の増収、営業利益は2,657万円(前連結会計年度は2,493万円の営業損失)となりました。

#### d. 不動産事業

不動産事業の売上高は1億3,098万円と前連結会計年度に比べ145万円(1.1%)の増収となり、営業利益は7,287万円(142.4%)の増益となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、退職給付に係る資産の増加が5億2,889万円、売上債権の増加が2億8,323万円ありましたが、税金等調整前当期純利益が4億6,446万円、減価償却費が8億7,678万円ありましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは7億9,382万円の収入超過となりました。有形固定資産の売却による収入が7億283万円ありましたが、有形固定資産の取得による支出が8億7,782万円、投資有価証券の取得による支出が7億6,563万円ありましたが、投資活動によるキャッシュ・フローは8億5,771万円の支出超過となりました。配当金の支払いによる支出が4,477万円ありましたが、財務活動によるキャッシュ・フローは4,977万円の支出超過となりました。以上の結果、資金は前連結会計年度末に比べて1億1,366万円減少し、当連結会計年度末では74億7,904万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は7億9,382万円（前連結会計年度は22億5,780万円の収入超過）となりました。

これは主として、退職給付に係る資産の増加の5億2,889万円、売上債権の増加の2億8,323万円がありましたが、税金等調整前当期純利益の4億6,446万円、減価償却費の8億7,678万円がありましたことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は8億5,771万円（前連結会計年度は3億1,176万円の支出超過）となりました。

これは主として、有形固定資産の売却による収入の7億283万円がありましたが、有形固定資産の取得による支出が8億7,782万円、投資有価証券の取得による支出が7億6,563万円がありましたことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は4,977万円（前連結会計年度は4,560万円の支出超過）となりました。

これは主として、配当金の支払い4,477万円によるものです。

生産、受注及び販売の実績

a．生産実績

特に記載すべき事項はありません。

b．受注実績

特に記載すべき事項はありません。

c．販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	前年同期比(%)
放送事業(千円)	6,749,268	101.1
映像事業(千円)	465,547	89.1
サービス事業(千円)	871,012	115.4
不動産事業(千円)	130,980	101.1
合計(千円)	8,216,808	101.6

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)		当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
(株)TBSテレビ	1,214,338	15.0	1,260,714	15.3
(株)電通	943,945	11.6	1,066,294	12.9
(株)博報堂DY メディアパートナーズ	785,149	9.7	780,163	9.4

(2)経営者の視点による、経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

(経営成績)

当連結会計年度の売上は、82億1,680万円と前連結会計年度に比べ1億3,621万円(1.6%)の増収となりました。営業費用につきましては、79億6,673万円と、前連結会計年度に比べ2億6,388万円(3.2%)の減少となりました。その結果、営業利益は2億5,007万円(前連結会計年度は1億5,002万円の営業損失)、経常利益は2億9,573万円(前連結会計年度は1億545万円の経常損失)、また親会社株主に帰属する当期純利益は4億612万円(前連結会計年度は1,401万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となり、前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

売上の大半を占める放送事業では、ラジオ部門の売上が5億8,688万円と、前連結会計年度に比べ2,547万円(4.1%)の減収となりました。「創立70周年記念特別番組」や「RSKラジオまつり」などもありましたが、ラジオタイム収入、ラジオスポット収入ともに前連結会計年度に比べ減少しました。テレビ部門の売上は61億5,460万円と、前連結会計年度に比べ1億18万円(1.6%)の増収となりました。テレビタイム収入は、「ティラノサウルス展」や「岡山市民ミュージカル」の成功などにより前連結会計年度に比べ増加、スポット収入も、地区内シェアの向上により前連結会計年度に比べ増加となりました。放送事業全体では売上は67億4,926万円、営業利益は2億3,056万円と前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

映像事業については、売上4億6,554万円、営業利益588万円と前連結会計年度に比べ減収減益となりました。

サービス事業については、売上8億7,101万円、営業利益2,657万円と前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

不動産事業については売上1億3,098万円、営業利益7,287万円と前連結会計年度に比べ増収増益となりました。

(財政状態)

当連結会計年度の流動資産は、売掛金が増加したことから、103億5,434万円となり、前連結会計年度に比べ2億7,496万円増加しました。固定資産は、投資有価証券の取得及び投資有価証券の評価増により、174億5,942万円となり、前連結会計年度に比べ15億5,174万円の増加となりました。

流動負債は未払消費税等が減少したため、前連結会計年度に比べ3,741万円減少し、13億4,797万円となりました。固定負債は繰延税金負債が増加したため、前連結会計年度に比べ4億8,197万円増加し、9億2,537万円となりました。

純資産合計は、255億4,042万円となり、前連結会計年度に比べ13億8,213万円増加しました。

(経営方針・経営戦略・経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等)

当社グループは事業の効率性の観点から「売上高経常利益率」を重要な指標として認識しております。前連結会計年度は、放送事業のテレビスポット収入の減少と新館開業に伴う減価償却費の増大により経常損失を計上しておりましたが、当連結会計年度は売上高経常利益率3.5%と改善しております。今後についても保有資産を新たな投資に振り分け、経営基盤の強化を図り、営業力強化と経費節減の両輪で経常利益の確保を行い、当該指標の向上に努めてまいります。

(経営成績に重要な影響を与える要因)

当社グループの収益の柱は、ラジオ・テレビの広告収入であります。この広告収入は景気変動や視聴率の動向、他のメディアとの競合による影響を受けるものであります。また、2021年度に開業した新社屋及びそれに伴う放送設備の導入による多額の償却費も当社グループの経営成績に影響を与えるものであります。詳しくは「第2 事業の状況」の「3 事業等のリスク」に記載しております。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが7億9,382万円の収入超過、投資活動によるキャッシュ・フローが8億5,771万円の支出超過、財務活動によるキャッシュ・フローは4,977万円の支出超過となりました。市況の回復に基づく利益改善、新社屋開業に伴う減価償却により営業活動によるキャッシュ・フローは収入超過になっていくものと想定しております。当社の収益物件の取得、有価証券取得に伴い、投資活動によるキャッシュ・フローについては支出超過が見込まれます。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、当連結会計年度末の連結ベースの現金及び現金同等物は、74億7,904万円で、前連結会計年度に比べ1億1,366万円(1.4%)減少しました。

放送事業におきましては、放送継続にかかる設備投資は今後も対応していく必要があります。また、その他事業においても、引続き事業の再構築を進めることが必要になると思われ、健全な財政状態を維持するとともに、営業活動によるキャッシュ・フローの充実を図るつもりであります。なお、キャッシュ・フローの状況につきましては(1)経営成績等の状況の概要の「キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

当社グループは現在、運転資金の一部を金融機関からの借入により調達しておりますが、当社においては設備資金、事業資金ともに自己資金にて対応しております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

連結財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)に記載のとおりであります。

## 5【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは当連結会計年度は放送事業及び不動産事業を中心に全体で952,586千円の設備投資を行いました。セグメントごとの設備投資の内訳は、次のとおりであります。なお、放送事業につきましては、ソフトウェア等の無形固定資産への設備投資額も含めて表示しております。

セグメントの名称	当連結会計年度 (千円)
放送事業	333,895
映像事業	4,845
サービス事業	1,423
不動産事業	612,526
小計	952,690
消去又は全社	103
合計	952,586

放送事業においては、ラジオ部門の新社屋移転を目的としたものを中心として333,895千円の設備投資を行っております。

不動産事業においては、収益不動産の取得を目的としたものを中心として612,526千円の設備投資を行っております。

当連結会計年度において、当社は連結子会社であるR S K山陽放送株式会社に賃貸しておりました「本社及び事務所等」の設備の一部を売却しております。

売却した設備は次のとおりであります。

#### 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社及び事務所等 (岡山市北区)	不動産事業	賃貸設備 全社設備	169,135	-	390,045 (1,245.19)	-	559,181	-

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (千円)	機械装置及び 運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社及び事務所等 (岡山市北区)	不動産事業	賃貸設備 全社設備	107,849	391	77,232 (3,646.02)	2,289	187,763	-
R S Kイノベティブ・ メディアセンター (岡山市北区)	不動産事業	賃貸設備 全社設備	6,399,370	33,402	1,634,075 (5,438.97)	1,315	8,068,163	5
R S K広場 (岡山市北区)	不動産事業	賃貸設備	98,629	1,069	1,206,985 (90,558.80)	273	1,306,958	-
くらしきビル (岡山県倉敷市)	不動産事業	賃貸設備	91,060	-	46,306 (1,174.53)	54	137,420	-
賃貸用所有地 (岡山市北区 他)	不動産事業	賃貸用土地	1,980	-	1,725,613 (16,763.50)	-	1,727,593	-

(注) 当連結会計年度において、「本社及び事務所等」の設備の一部を売却しております。

## (2) 国内子会社

## R S K山陽放送株式会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社スタジオ及び事務所等 (岡山市北区)	放送事業	番組制作設備 伝送装置 及び事務所	50,423	902,090	-	227,787	1,180,300	115 [5]
吉備ラジオ送信所 (岡山市北区)	放送事業	親局送受信装置	9,871	-	-	-	9,871	-
金甲山テレビ送信所 (岡山市南区)	放送事業	親局送受信装置	37,162	286	332 (1,303.80)	-	37,780	-
ラジオ中継放送局 ・中継所 (岡山県内8局)	放送事業	中継局送受信装置	34,887	5,562	15,061 (18,973.93)	-	55,510	-
テレビ中継放送局 (岡山県内63カ所・ 他10ヶ所)	放送事業	中継局送受信装置	224,040	37,528	5,460 (11,445.52)	368	267,396	-
東京支社他3支社 ・倉敷支局他1支局	放送事業	営業・報道設備	2,138	1,532	-	41,560	45,230	20 [1]
R S K広場 (岡山市北区)	放送事業	ハウジングプラザ等	31,043	34	-	43,867	74,944	-

## 株式会社R S Kプロビジョン

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (岡山市北区)	映像事業	撮影編集設備 及び事務所	40,596	9,374	175,433 (325.89)	15,939	241,344	67

## 株式会社R S Kサービス

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構築物 (千円)	機械装置及び運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (岡山市北区)	サービス事業	CD-ROM・マイクロ フィルム設備及び 事務所	11,828	1,809	-	2,478	16,116	47

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具、備品及び敷金であります。

2. 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員数は[ ]内に年間の平均人員数を外数で記載しております。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等  
該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000
計	1,600,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2024年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	600,000	600,000	非上場	当社は単元株制度を採用しておりません。
計	600,000	600,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
1961年7月1日	200	600	100,000	300,000	-	-

(注) 有償株主割当 2:1 200千株  
発行価格500円 資本組入額500円

#### (5)【所有者別状況】

2024年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 - 株)							単元未満 株式の状況	
	政府及び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	19	14	1	138	-	-	547	719	-
所有株式数(株)	108,810	36,660	30	281,959	-	-	172,541	600,000	-
所有株式数の割合 (%)	18.14	6.11	0.00	46.99	-	-	28.76	100.0	-

## ( 6 ) 【大株主の状況】

2024年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
岡山県	岡山市北区内山下2-4-6	60	10.00
(株)山陽新聞社	岡山市北区柳町2-1-1	44	7.45
(株)クラレ	岡山県倉敷市酒津1621	32	5.33
(株)天満屋	岡山市北区表町2-1-1	31	5.26
岡山市	岡山市北区大供1-1-1	31	5.23
倉敷紡績(株)	岡山県倉敷市本町7-1	24	4.00
小松原 真一郎	東京都港区	20	3.38
岡崎共同(株)	岡山市中区森下町1-14	15	2.50
(株)中国銀行	岡山市北区丸の内1-15-20	13	2.30
友田 重文	岡山市中区	11	1.90
計	-	284	47.38

## ( 7 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2024年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 600,000	600,000	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	600,000	-	-
総株主の議決権	-	600,000	-

## 【自己株式等】

2024年3月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

## 2【自己株式の取得等の状況】

### 【株式の種類等】

該当事項はありません。

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は利益配分につきましては、今後の成長のために適切な投資を行う一方、認定放送持株会社という責任ある立場を踏まえ、財務体質の強化・維持を図るとともに、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、期末配当として年1回の安定した配当を継続して実施していくことを基本方針としております。また、この配当の決定機関は株主総会であります。当期（2024年3月期）につきましては1株につき50円の配当を実施することを決定いたしました。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
2024年6月27日 定時株主総会決議	30,000	50

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

当社は、「地域とともに」という社是のもと、地域の賑わいの創出、正確な報道による地域市民の生活・生命の安全を守ることを基本方針としております。その上でコーポレート・ガバナンスを経営上の極めて重要な課題と位置づけ、その実施に努めております。

#### 企業統治に関する事項

#### a 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

当社は、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関及び監督機関として取締役会、業務執行機関として代表取締役、監査機関として監査役という機関制度を基本としています。このため、取締役会など意思決定機関では、十分な議論を尽くすとともに意思決定や業務執行に対する監督機能の強化を図っております。取締役会は、取締役14名（うち社外取締役8名）で構成され、当事業年度中に10回開催された取締役会でも十分な監督機能を果たしております。当社と当該社外取締役（いずれも非常勤）の間には取引関係その他の利害関係はありません。また、監査役1名は、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務及び財産の状況調査を通して、取締役の業務執行を監査しております。当社の会計監査はEY新日本有限責任監査法人に依頼しております。

#### b リスク管理体制の整備の状況

当社グループは統一のコンプライアンス憲章を定め、中核会社であるRSK山陽放送においては別途コンプライアンス規定を設け、代表取締役社長を委員長としたコンプライアンス委員会を設置し法令遵守に努めております。また、日本民間放送連盟の放送基準並びに当社番組審議会で定めた番組基準、報道倫理ガイドライン、情報セキュリティ・ポリシー、個人情報保護規定などの各種ガイドライン及び公益通報制度（内部通報制度）によるリスク管理体制を構築しております。

内部統制については、代表取締役社長のイニシアティブにより業務の適正な運営、改善に努め、また、外部の専門家とも連携して対応しております。情報開示については、経営の透明性を高めるため、ホームページでの企業情報の公開など、積極的な情報開示に努めております。

c 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の取締役を当社から派遣し、監査役については当社グループで共通の人物をその役に置き、子会社の経営の監視及び業務執行の監査等を行っております。また、規模・業態に合ったリスク管理体制に取組み、コンプライアンス体制の強化を図るほか、当社役員へ業績概況等について定期的に報告することにより、業務の適正を確保するための体制を整備しております。

d 役員報酬の内容

役員報酬の内容につきましては、次のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	102,505	94,080	-	8,425	7
監査役 (社外監査役を除く)	11,437	10,200	-	1,237	2
社外取締役	20,400	19,200	-	1,200	8
社外監査役	-	-	-	-	-

注) 退職慰労金は当期の役員退職慰労引当金繰入額を記載しております。

e 責任限定契約の内容の概要

当社は、2022年6月29日開催の第74回定時株主総会において、取締役及び監査役の責任限定契約を可能とする旨を定款に定めております。これに基づき、当社は取締役及び監査役との間で、当該責任限定契約を締結しております。なお、当該責任限定契約に基づく取締役及び監査役の損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項の定めによる最低責任限度額を限度として、損害賠償責任を負うものとしております。

f 役員賠償責任保険(D&O保険)契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3に規定する役員等賠償責任保険契約(D&O保険)を保険会社との間で締結しております。これにより、取締役・監査役等が業務に起因して損害賠償責任を負った場合における損害(ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当するものを除く)等を填補することとしております。保険料は全額当社が負担しております。

g 取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を年10回開催しており、個々の取締役の出席状況については次の通りであります。また、開催回数は当該人物が取締役の地位にあった期間に行われた取締役会の回数です。

氏名	開催回数	出席回数
里見 俊樹	10	10
原 憲一	10	10
藤森 徹	2	2
徳川 修司	10	10
物部 一宏	10	10
長原 正明	8	7
山下 晴海	8	8
伊藤 正明	10	6
伊原木 隆太	10	3
大森 雅夫	10	7
越宗 孝昌	10	10
斎藤 和好	10	8
藤田 晴哉	10	7
松田 正己	10	10
宮長 雅人	10	9

取締役会における具体的な検討内容として、予算の決定及びその執行状況、重要な投資又は資産の処分、社内重要人事等についてを諮っており、それらについての最終的な意思決定を行っております。

h 取締役の定数

当社の取締役は20名以内を置く旨を定款に定めております。

i 取締役の選任の決議要件

取締役は株主総会の決議によって選任しております。取締役の選任決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行っております。取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

j 取締役の解任の決議要件

取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

k 株主総会の特別決議要件

会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

## ( 2 ) 【 役員の状況】

## 役員一覧

男性 15名 女性 名 ( 役員のうち女性の比率 % )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役会長 グループ経営全般担当	里見 俊樹	1957年 7月12日生	1981年4月 当社入社 2016年6月 営業局長 2018年4月 執行役員営業局長就任 2019年4月 R S K山陽放送(株)取締役就任 2021年6月 常務取締役就任 2022年1月 代表取締役社長就任 R S K山陽放送(株)代表取締役社長就任 2024年6月 取締役会長就任(現) R S K山陽放送(株)相談役就任(現)	(注) 2	2,530
代表取締役社長 グループ経営統括担当	物部 一宏	1965年 1月16日生	1988年4月 当社入社 2019年4月 R S K山陽放送(株)営業局長 2020年6月 R S K山陽放送(株)執行役員営業局長就任 2021年6月 取締役就任 R S K山陽放送(株)取締役就任 2023年1月 R S K山陽放送(株)常務取締役就任 2023年6月 (株)R S Kプロビジョン 代表取締役社長就任 2024年6月 代表取締役社長就任(現) R S K山陽放送(株)代表取締役社長就任(現)	(注) 2	740
専務取締役 グループ経営統括補佐担当	徳川 修司	1964年 4月14日生	1987年4月 当社入社 2019年4月 R S K山陽放送(株)東京支社長 2020年6月 R S K山陽放送(株)執行役員東京支社長就任 2021年6月 取締役就任 R S K山陽放送(株)取締役就任 2023年1月 R S K山陽放送(株)常務取締役就任 2023年6月 (株)R S Kサービス代表取締役社長就任(現) 2024年6月 専務取締役就任(現) R S K山陽放送(株)専務取締役就任(現)	(注) 2	740
常務取締役 放送事業の コンテンツ制作担当	山下 晴海	1967年 8月25日生	1991年4月 当社入社 2021年6月 R S K山陽放送(株)報道局長 2023年1月 R S K山陽放送(株) 取締役報道制作局長就任 2023年6月 取締役就任 2024年6月 常務取締役就任(現) R S K山陽放送(株)常務取締役就任(現) (株)R S Kプロビジョン 代表取締役社長就任(現)	(注) 2	50
取締役(相談役) グループ事業企画推進担当	原 憲一	1947年 5月27日生	1970年4月 当社入社 2002年6月 報道制作局長 2003年6月 取締役就任 2007年6月 常務取締役就任 2011年6月 代表取締役社長就任 2017年6月 代表取締役会長就任 2019年4月 R S K山陽放送(株)取締役会長就任 2021年4月 R S K山陽放送(株)代表取締役会長就任 2021年6月 代表取締役会長兼社長就任 R S K山陽放送(株)代表取締役会長兼社長就任 2022年1月 取締役会長就任 R S K山陽放送(株)取締役会長就任 2023年1月 取締役(相談役)就任(現) R S K山陽放送(株)取締役(相談役)就任 2024年6月 R S K山陽放送(株)相談役就任(現)	(注) 2	675
取締役 グループガバナンス・ 新規ビジネス開発担当 経営管理局長委嘱	長原 正明	1968年 5月13日生	1991年4月 当社入社 2021年6月 R S K山陽放送(株)総務局長 2023年1月 執行役員就任 R S K山陽放送(株)取締役就任(現) 2023年6月 取締役就任(現)	(注) 2	100

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	伊藤 正明	1957年 6月23日生	2015年 1月 (株)クラレ代表取締役社長就任 2016年 6月 当社取締役就任(現) 2021年 1月 (株)クラレ取締役会長就任(現)	(注) 2	-
取締役	伊原木 隆太	1966年 7月29日生	1998年 5月 (株)天満屋代表取締役社長就任 1998年 6月 当社取締役就任 2012年 3月 当社取締役辞任 2012年11月 岡山県知事就任(現) 2013年 6月 当社取締役就任(現)	(注) 2	-
取締役	大森 雅夫	1954年 2月25日生	1977年 4月 建設省採用 2012年 9月 国土交通省国土政策局長就任 2013年10月 岡山市長就任(現) 2014年 6月 当社取締役就任(現)	(注) 2	-
取締役	加藤 貞則	1957年 8月23日生	2019年 6月 (株)中国銀行代表取締役頭取就任(現) 2024年 6月 当社取締役就任(現)	(注) 2	-
取締役	越宗 孝昌	1941年12月27日生	2006年12月 (株)山陽新聞社代表取締役社長就任 2007年 6月 当社取締役就任(現) 2014年 6月 (株)山陽新聞社代表取締役会長就任 2017年 2月 (株)山陽新聞社取締役会長就任 2020年 2月 (株)山陽新聞社相談役就任(現)	(注) 2	-
取締役	斎藤 和好	1967年 1月24日生	2022年 4月 (株)天満屋代表取締役社長就任(現) 2022年 6月 当社取締役就任(現)	(注) 2	-
取締役	藤田 晴哉	1958年 7月26日生	2014年 6月 倉敷紡績(株)代表取締役社長就任 2015年 6月 当社取締役就任(現) 2024年 6月 倉敷紡績(株)代表取締役会長就任(現)	(注) 2	-
取締役	松田 正己	1949年 9月26日生	2014年 6月 (株)山陽新聞社代表取締役社長就任(現) 2020年 6月 当社取締役就任(現)	(注) 2	-
常勤監査役	永井 卓志	1953年 2月19日生	1976年 4月 当社入社 2010年 3月 四国支社長 2012年 6月 執行役員四国支社長就任 2015年 6月 取締役就任 2016年 6月 常務取締役就任 2021年 6月 常勤監査役就任(現) R S K山陽放送(株)常勤監査役就任(現)	(注) 3	980
計					5,815

(注) 1. 取締役 伊藤正明、伊原木隆太、大森雅夫、加藤貞則、越宗孝昌、斎藤和好、藤田晴哉、松田正己、の8名は社外取締役であります。

2. 2024年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

3. 2021年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

#### 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は8名であり、社外監査役については、当社が監査役会非設置会社であり、常勤監査役が当社の業務に精通し、経験に根差した適切な監査を行うことが期待できることから、特に社外監査役を設置していません。

社外取締役の伊原木隆太は当社の大株主である岡山県知事、松田正己は同じく大株主である(株)山陽新聞社の代表取締役社長、越宗孝昌は(株)山陽新聞社の相談役、伊藤正明は同じく大株主である(株)クラレの取締役会長、斎藤和好は(株)天満屋の代表取締役社長、大森雅夫は岡山市長、藤田晴哉は倉敷紡績(株)の代表取締役会長、加藤貞則は(株)中国銀行の代表取締役頭取であります。

当社において、社外取締役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、広い見識を持ち客観的かつ適切な監督を行うことが期待され、一般株主と利益相反の生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。なお、当社と社外取締役との間に人的関係はありません。

## (3) 【監査の状況】

## 監査役監査の状況

当社における監査役は常勤監査役1名であり、取締役会をはじめとする重要な会議への出席や、業務および財産の状況調査を通して、取締役の業務執行を監査しております。

なお、当社の社外取締役は8名であり、社外監査役については、当社が監査役会非設置会社であり、監査役が当社の業務に精通し、経験に根差した適切な監査を行うことが期待できることから、特に社外監査役を設置しておりません。

監査役は当社及びR S K山陽放送株式会社、株式会社R S Kプロビジョン、株式会社R S Kサービスの取締役会に出席し、その職務の執行状況について報告を受けております。また、当社グループの核となるR S K山陽放送株式会社においては、毎週開催される局長会議の議事録を確認し、業績の概況、設備投資、人事等について役員及び担当局長から適宜説明を受けております。

当社及びR S K山陽放送株式会社における監査役の取締役会への出席状況は以下のとおりであります。また、開催回数は該当人物が監査役の地位にあった期間に行われた取締役会の回数です。

## a. R S Kホールディングス株式会社

監査役 氏名	開催回数	出席回数
永井 卓志	10	10
宮崎 昭郎	2	2

## b. R S K山陽放送株式会社

監査役 氏名	開催回数	出席回数
永井 卓志	10	10

## 内部監査の状況

当社は内部監査の専門部門を設置しておりませんが、監査役制度を採用しており、業務実施において適正な管理等を行うとともに監査役と連携しつつ内部監査等を実施しております。

また、内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門の関係につきましては、会計監査部門と内部統制部門が連携して子会社を含む内部統制監査を行い、その監査結果を半期に一度、代表取締役社長及び監査役に報告し、内部統制部門にて共有しております。内部監査は、会計に関しては子会社を含む内部統制システムの中で実査、モニタリングを行い、会計以外の事項に関しては、会社法の求める内部統制システムのなかで独自に監査を行っております。

## 会計監査の状況

## a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

## b. 継続監査期間

1969年以降

上記継続監査期間は、当社において調査可能な範囲での期間であり、実際の継続監査期間は上記期間を超えている可能性があります。

## c. 業務を執行した公認会計士

堀川 紀之

## d. 監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他3名であります。

e . 監査法人の選定方針と理由

監査人としての専門性、独立性、適切性、妥当性及び監査品質を備え、当社の事業規模・内容に適した効率的かつ有効な監査業務の運営が期待できることを選定方針としております。なお、監査人が職務上の義務に違反し、または職務を怠り、もしくは監査人としてふさわしくない非行があるなど、当社の監査人であることにつき重大な支障があると判断した場合、監査役の同意により監査人を解任し、監査役が解任後最初に招集される株主総会において解任した旨と解任の理由の報告を行います。

f . 監査役による監査法人の評価

公認会計士等が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施していること、また、その職務の執行状況について必要な報告、説明を行っていることを検証しております。

監査報酬の内容等

a . 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(万円)	非監査業務に基づく報酬(万円)	監査証明業務に基づく報酬(万円)	非監査業務に基づく報酬(万円)
提出会社	1,150	-	1,150	-
連結子会社	-	-	-	-
計	1,150	-	1,150	-

b . 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬 ( a を除く )

該当事項はありません。

c . その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

監査日数等を勘案したうえで決定しております。

( 4 ) 【 役員の報酬等】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容につきましては、「 4 コーポレートガバナンスの状況等 ( 1 ) コーポレートガバナンスの概要」に記載しております。

( 5 ) 【 株式の保有状況】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適正な財務諸表等を作成できる体制を整備するため、民間の財務セミナー、研修等に積極的に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,877,712	7,774,045
受取手形	5,239	7,435
売掛金	1,919,537	2,200,573
契約資産	-	11,285
有価証券	99,330	200,420
棚卸資産	3 93,869	3 97,762
未収還付法人税等	27,094	10,975
その他	58,497	53,780
貸倒引当金	1,897	1,933
流動資産合計	10,079,383	10,354,345
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2 11,185,348	2 10,916,010
減価償却累計額	3,676,292	3,775,201
建物及び構築物(純額)	2 7,509,056	2 7,140,809
機械装置及び運搬具	2 9,829,507	2 7,894,050
減価償却累計額	8,604,426	6,901,157
機械装置及び運搬具(純額)	2 1,225,080	2 992,892
工具、器具及び備品	684,452	682,920
減価償却累計額	379,299	388,412
工具、器具及び備品(純額)	305,152	294,507
土地	4,759,367	4,890,629
建設仮勘定	2,475	-
有形固定資産合計	13,801,131	13,318,839
無形固定資産	107,966	64,018
投資その他の資産		
投資有価証券	1 1,253,385	1 2,818,904
繰延税金資産	43,537	42,601
退職給付に係る資産	568,614	1,097,509
その他	171,127	153,394
貸倒引当金	38,083	35,843
投資その他の資産合計	1,998,581	4,076,565
固定資産合計	15,907,678	17,459,422
資産合計	25,987,061	27,813,768

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	206,338	260,277
短期借入金	180,000	180,000
1年内返済予定の長期借入金	5,004	5,004
未払金	370,374	511,461
未払費用	208,902	205,123
未払法人税等	19,027	14,847
未払消費税等	259,501	80,583
その他	4 136,237	4 90,675
流動負債合計	1,385,385	1,347,973
固定負債		
長期借入金	12,887	7,883
繰延税金負債	184,536	672,787
役員退職慰労引当金	118,225	108,741
退職給付に係る負債	57,876	56,049
その他	69,867	79,910
固定負債合計	443,393	925,371
負債合計	1,828,778	2,273,345
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,000	300,000
利益剰余金	23,656,337	24,017,464
株主資本合計	23,956,337	24,317,464
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	240,260	936,348
退職給付に係る調整累計額	38,314	286,610
その他の包括利益累計額合計	201,945	1,222,958
純資産合計	24,158,283	25,540,423
負債純資産合計	25,987,061	27,813,768

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	1 8,080,596	1 8,216,808
売上原価	4,269,104	4,036,502
売上総利益	3,811,492	4,180,305
販売費及び一般管理費	2 3,961,514	2 3,930,228
営業利益又は営業損失( )	150,021	250,076
営業外収益		
受取利息	1,476	10,827
受取配当金	23,144	24,970
補助金収入	10,013	1,669
雑収入	10,971	9,168
営業外収益合計	45,606	46,636
営業外費用		
支払利息	1,013	955
雑損失	26	25
営業外費用合計	1,039	981
経常利益又は経常損失( )	105,454	295,731
特別利益		
固定資産売却益	3 805	3 182,099
補助金収入	-	5,083
特別利益合計	805	187,182
特別損失		
固定資産除却損	4 2,103	4 8,191
固定資産圧縮損	-	5,083
ゴルフ会員権評価損	990	750
投資有価証券評価損	92	12
事務所移転費用	35	4,412
特別損失合計	3,221	18,449
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失( )	107,870	464,464
法人税、住民税及び事業税	20,110	43,385
法人税等調整額	113,964	14,952
法人税等合計	93,854	58,337
当期純利益又は当期純損失( )	14,016	406,126
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失( )	14,016	406,126

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
当期純利益又は当期純損失( )	14,016	406,126
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,860	696,088
退職給付に係る調整額	62,107	324,924
その他の包括利益合計	51,246	1,021,013
包括利益	65,263	1,427,139
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	65,263	1,427,139

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	300,000	23,700,354	24,000,354	229,399	23,792	253,192	24,253,546
当期変動額							
剰余金の配当		30,000	30,000				30,000
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）		14,016	14,016				14,016
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			-	10,860	62,107	51,246	51,246
当期変動額合計	-	44,016	44,016	10,860	62,107	51,246	95,263
当期末残高	300,000	23,656,337	23,956,337	240,260	38,314	201,945	24,158,283

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	300,000	23,656,337	23,956,337	240,260	38,314	201,945	24,158,283
当期変動額							
剰余金の配当		45,000	45,000				45,000
親会社株主に帰属する当期純利益		406,126	406,126				406,126
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			-	696,088	324,924	1,021,013	1,021,013
当期変動額合計	-	361,126	361,126	696,088	324,924	1,021,013	1,382,139
当期末残高	300,000	24,017,464	24,317,464	936,348	286,610	1,222,958	25,540,423

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失 ( )	107,870	464,464
減価償却費	1,077,012	876,786
貸倒引当金の増減額 ( は減少)	4,055	285
退職給付に係る資産の増減額 ( は増加)	38,536	528,895
退職給付に係る負債の増減額 ( は減少)	5,336	1,827
役員退職慰労引当金の増減額 ( は減少)	14,760	9,484
受取利息及び受取配当金	24,621	35,798
支払利息	1,013	955
投資有価証券評価損益 ( は益)	92	12
固定資産売却損益 ( は益)	805	182,099
固定資産除却損	2,103	8,191
固定資産圧縮損	-	5,083
補助金収入	10,013	6,752
売上債権の増減額 ( は増加)	344,770	283,231
契約資産の増減額 ( は増加)	174,999	11,285
棚卸資産の増減額 ( は増加)	11,456	3,893
未収消費税等の増減額 ( は増加)	651,314	-
仕入債務の増減額 ( は減少)	296,617	53,939
未払金の増減額 ( は減少)	94,181	83,971
未払費用の増減額 ( は減少)	5,720	3,779
未払消費税等の増減額 ( は減少)	233,987	178,917
その他	69,183	538,619
小計	1,939,752	786,344
利息及び配当金の受取額	23,576	33,703
利息の支払額	1,013	955
補助金の受取額	10,013	6,752
法人税等の支払額又は還付額 ( は支払)	285,474	32,014
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,257,803	793,829
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 ( は増加)	120,000	-
有形固定資産の取得による支出	219,766	877,824
有形固定資産の売却による収入	1,909	702,838
無形固定資産の取得による支出	8,463	17,873
投資有価証券の取得による支出	256,696	765,630
投資有価証券の償還による収入	100,000	100,000
その他	48,746	770
投資活動によるキャッシュ・フロー	311,763	857,719
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 ( は減少)	10,000	-
長期借入金の返済による支出	5,004	5,004
配当金の支払額	30,603	44,772
財務活動によるキャッシュ・フロー	45,607	49,776
現金及び現金同等物の増減額 ( は減少)	1,900,431	113,666
現金及び現金同等物の期首残高	5,692,281	7,592,712
現金及び現金同等物の期末残高	7,592,712	7,479,045

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

R S K山陽放送株式会社  
株式会社R S Kプロビジョン  
株式会社R S Kサービス

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

エフエム高松コミュニティ放送株式会社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社1社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、純損益(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社または非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

エフエム高松コミュニティ放送株式会社

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他の有価証券

市場価格のない株式等以外のもの.....時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等.....主として移動平均法による原価法を採用しております。

棚卸資産

主に移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物 3~50年

機械装置及び運搬具 5~6年

工具、器具及び備品 5~6年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員に支給する退職給与に充てるため内規に基づく期末退職一時金要支給額の100%を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定率法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。

(5)重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点は以下のとおりであります。

放送事業は、主として、ラジオ・テレビの放送時間の販売と番組の制作ならびに販売を行っております。これらの履行義務は放送時点で充足されていると判断していることから、放送時点で収益を認識しております。

映像事業は、主として、記録・PR映像の制作ならびに販売を行っております。当該履行義務は製品の引渡時点で充足されていると判断していることから、製品の引渡時点で収益を認識しております。

サービス事業は、主として、システム機器の販売を行っております。当該履行義務は製品の引渡時点で充足されていると判断していることから、製品の引渡時点で収益を認識しております。

なお、映像事業及びサービス事業においては、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。また、請負契約については、一定の期間にわたり履行義務が充足されると判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づき収益を認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した原価が予想される原価の合計に占める割合に基づいて行っておりますが、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合には、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

取引の対価はいずれの事業においても履行義務を充足してから1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

(6)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

1.当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
繰延税金資産(純額)	43,537	42,601
繰延税金負債との相殺前の金額	159,046	156,070

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

(1)算出方法

将来減算一時差異及び税務上の繰越欠損金に対して、将来の収益力に基づく課税所得及びタックス・プランニングに基づき、繰延税金資産の回収可能性を判断しております。課税所得の見積りは事業計画を基礎としております。

(2)主要な仮定

課税所得の見積りに用いた主要な仮定は、売上見込額であります。

(3)翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

主要な仮定である売上見込額の見積りには不確実性が伴い、経営環境の変化により将来の課税所得が変動する可能性があります。課税所得が変動した場合には、繰延税金資産の取崩しまたは追加計上により連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
投資有価証券	36,430千円	36,430千円

2 取得原価から控除された国庫補助金等累計額

有形固定資産に係る国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
建物及び構築物	10,509千円	10,509千円
機械装置及び運搬具	142,421	147,504
計	152,930	158,013

3 棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
商品及び製品	78,334千円	82,428千円
仕掛品	8,244	8,946
原材料及び貯蔵品	7,290	6,387

4 その他のうち、契約負債の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
契約負債	20,251千円	20,341千円

## (連結損益計算書関係)

## 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
人件費	1,241,161千円	1,252,496千円
代理店手数料	1,216,954	1,234,936
減価償却費	358,307	323,039
貸倒引当金繰入額	3,133	-
退職給付費用	22,937	32,946
役員退職慰労引当金繰入額	18,140	16,766

## 3 固定資産売却益の内容は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物及び構築物	- 千円	80,131千円
機械装置及び運搬具	805	19,017
土地	-	82,951
計	805	182,099

## 4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物及び構築物	123千円	7,325千円
機械装置及び運搬具	25	448
工具、器具及び備品	1,090	32
無形固定資産	864	384
計	2,103	8,191

## (連結包括利益計算書関係)

## その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	15,618千円	1,000,990千円
税効果調整前	15,618	1,000,990
税効果額	4,757	304,901
その他有価証券評価差額金	10,860	696,088
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	87,018	482,250
組替調整額	7,455	12,006
税効果調整前	94,474	494,257
税効果額	32,366	169,332
退職給付に係る調整額	62,107	324,924
その他の包括利益合計	51,246	1,021,013

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	600,000	-	-	600,000
合計	600,000	-	-	600,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	30,000	50	2022年3月31日	2022年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	45,000	利益剰余金	75	2023年3月31日	2023年6月30日

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	600,000	-	-	600,000
合計	600,000	-	-	600,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	45,000	75	2023年3月31日	2023年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年6月27日 定時株主総会	普通株式	30,000	利益剰余金	50	2024年3月31日	2024年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
現金及び預金勘定	7,877,712千円	7,774,045千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	285,000	295,000
現金及び現金同等物	7,592,712	7,479,045

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用について短期的な預金等に加え、公社債等の債券投資を行っており、投機的な取引は行っておりません。また、資金調達については、主として自己資金、部分的に短期および長期の銀行借入を利用しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びに管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理体制に従い、取引先毎の期日管理及び残高管理を行っております。

また、有価証券及び投資有価証券は、主に債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されていますが、半期ごとに時価の把握を行っております。

(3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。また、当社グループはデリバティブ取引を行っておりません。

前連結会計年度(2023年3月31日現在)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
有価証券及び投資有価証券	1,247,317	1,247,317	-
資産計	1,247,317	1,247,317	-

当連結会計年度(2024年3月31日現在)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
有価証券及び投資有価証券	2,838,058	2,838,058	-
資産計	2,838,058	2,838,058	-

(注)1. 「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「短期借入金」「未払金」「未払消費税等」については、現金であること、及び預金、受取手形、売掛金、短期借入金、未払金、未払消費税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等は、「有価証券及び投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下の通りであります。

(単位:千円)

区分	前連結会計年度	当連結会計年度
非上場株式	68,968	144,836
関係会社株式	36,430	36,430
合計	105,398	181,266

## (注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2023年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	7,867,199	-	-	-
受取手形	5,239	-	-	-
売掛金	1,919,537	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち 満期があるもの				
社債	100,000	200,000	-	-
合計	9,891,976	200,000	-	-

当連結会計年度(2024年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	7,759,329	-	-	-
受取手形	7,435	-	-	-
売掛金	2,200,573	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち 満期があるもの				
社債	200,000	-	200,000	200,000
合計	10,167,337	-	200,000	200,000

(注) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額については、連結附属明細表「借入金等明細表」を作成しているため、記載を省略しております。

## 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度(2023年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	950,027	-	-	950,027
社債	-	297,290	-	297,290
資産計	950,027	297,290	-	1,247,317

当連結会計年度（2024年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	2,135,666	-	-	2,135,666
社債	-	702,391	-	702,391
資産計	2,135,666	702,391	-	2,838,058

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しており、活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債は、相場価格を用いて評価しておりますが、市場における取引頻度を考慮した結果、活発な市場における相場価格とは認められないと判断し、その時価をレベル2の時価に分類しております。

（有価証券関係）

## 1. その他有価証券

前連結会計年度（2023年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	745,235	345,131	400,103
	(2) 債券 社債	-	-	-
	小計	745,235	345,131	400,103
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	204,791	256,686	51,894
	(2) 債券 社債	297,290	300,000	2,710
	小計	502,081	556,686	54,604
合計		1,247,317	901,817	345,499

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額68,968千円）については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（2024年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,119,020	772,955	1,346,065
	(2) 債券 社債	602,921	600,000	2,921
	小計	2,721,942	1,372,955	1,348,986
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	16,645	18,613	1,967
	(2) 債券 社債	99,470	100,000	530
	小計	116,115	118,613	2,497
合計		2,838,058	1,491,568	1,346,489

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額144,836千円）については、市場価格がないことから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、投資有価証券について92千円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、投資有価証券について12千円減損処理を行っております。

なお、株式の減損処理にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合及び時価が取得原価に比べて2年間継続して30%以上50%未満下落した状態にある場合には、すべて時価と簿価の差額について評価損の計上を行っております。

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

一部連結子会社は、確定給付型の制度として規約型確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、一部連結子会社では中小企業退職金共済制度に加入しております。なお、一部連結子会社が有する一時金制度については、簡便法（退職給付債務を期末要支給額により算定）により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,624,609千円	3,587,537千円
勤務費用	134,452	132,467
利息費用	10,873	10,762
数理計算上の差異の発生額	22,133	105,815
退職給付の支払額	160,264	158,728
退職給付債務の期末残高	3,587,537	3,466,223

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
年金資産の期首残高	4,231,759千円	4,156,151千円
期待運用収益	105,793	103,903
数理計算上の差異の発生額	109,152	376,435
事業主からの拠出額	88,014	85,970
退職給付の支払額	160,264	158,728
年金資産の期末残高	4,156,151	4,563,732

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	63,212千円	57,876千円
退職給付費用	9,669	10,761
退職給付の支払額	15,005	12,588
退職給付に係る負債の期末残高	57,876	56,049

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,587,537千円	3,466,223千円
年金資産	4,156,151	4,563,732
	568,614	1,097,509
非積立型制度の退職給付債務	57,876	56,049
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	510,737	1,041,460
退職給付に係る負債	57,876	56,049
退職給付に係る資産	568,614	1,097,509
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	510,737	1,041,460

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
勤務費用	134,452千円	132,467千円
利息費用	10,873	10,762
期待運用収益	105,793	103,903
数理計算上の差異の費用処理額	7,455	12,006
簡便法で計算した退職給付費用	9,669	10,761
確定給付制度に係る退職給付費用	41,745	62,093

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
数理計算上の差異	94,474千円	494,257千円

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
未認識数理計算上の差異	58,281千円	435,975千円

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
債券	25.9%	26.7%
株式	31.8	34.8
一般勘定	34.1	31.8
その他	8.2	6.7
合計	100	100

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
割引率	0.3%	0.3%
長期期待運用収益率	2.5%	2.5%
予想昇給率	5.9%	5.9%

(注) 予想昇給率は、ポイント制度に基づき算定しております。

## 3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度14,589千円、当連結会計年度14,459千円です。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
繰延税金資産		
投資有価証券評価損	23,612 千円	23,616 千円
減損損失	18,078	18,078
ゴルフ会員権評価損	2,564	2,299
貸倒引当金	10,988	10,306
未払事業税	1,669	2,034
未払費用	65,998	64,787
退職給付に係る負債	19,730	19,107
役員退職慰労引当金	37,036	34,348
税務上の繰越欠損金(注2)	166,727	81,979
その他	69,314	45,921
繰延税金資産小計	415,720	302,478
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注2)	163,681	53,492
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	92,992	92,914
評価性引当額小計(注1)	256,673	146,407
繰延税金資産計	159,046	156,070
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	105,239	376,006
退職給付に係る資産	194,807	410,140
その他	-	109
繰延税金負債計	300,046	786,257
繰延税金資産(負債)の純額	140,999	630,186

(注) 1. 評価性引当額が110,265千円減少しております。この減少の主な内容は、課税所得が発生したことに伴い、税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額が減少したことによるものです。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額  
前連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金( )	-	-	-	-	-	166,727	166,727
評価性引当額	-	-	-	-	-	163,681	163,681
繰延税金資産	-	-	-	-	-	3,046	3,046

( )税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

## 当連結会計年度(2024年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金( )	-	-	-	-	-	81,979	81,979
評価性引当額	-	-	-	-	-	53,492	53,492
繰延税金資産	-	-	-	-	-	28,486	28,486

( )税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当連結会計年度 (2024年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.5%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	1.7
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.3
住民税均等割	-	2.3
評価性引当額の増減	-	23.7
連結子会社との税率差異	-	2.4
その他	-	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	12.6

(注)前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しています。

(賃貸等不動産関係)

当社は、主に岡山県において、賃貸用の建物及び土地を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は90,764千円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は88,922千円(賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は次のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	1,488,165	1,510,330
	期中増減額	22,165	354,683
	期末残高	1,510,330	1,865,014
期末時価		1,885,243	2,139,075

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、当連結会計年度の減少は、売却による減少(161,137千円)と減価償却によるものであります。  
当連結会計年度の主な増加は、不動産の取得による増加(521,308千円)によるものであります。
3. 時価の算定方法  
連結決算日における時価は、不動産鑑定評価額及び固定資産税評価額に基づいて自社で算定した金額であります。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	放送事業	映像事業	サービス事業	不動産事業	
ラジオ	612,356	-	-	-	612,356
テレビ	6,054,426	-	-	-	6,054,426
その他	-	522,457	754,426	-	1,276,884
顧客との契約から生じる収益	6,666,782	522,457	754,426	-	7,943,666
その他の収益	7,404	-	-	129,524	136,929
外部顧客への売上高	6,674,187	522,457	754,426	129,524	8,080,596

(注) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入であります。

当連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	放送事業	映像事業	サービス事業	不動産事業	
ラジオ	586,884	-	-	-	586,884
テレビ	6,154,608	-	-	-	6,154,608
その他	-	465,547	871,012	-	1,336,559
顧客との契約から生じる収益	6,741,493	465,547	871,012	-	8,078,052
その他の収益	7,775	-	-	130,980	138,755
外部顧客への売上高	6,749,268	465,547	871,012	130,980	8,216,808

(注) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報  
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項(5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。
3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	2,269,547	1,924,776
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	1,924,776	2,208,008
契約資産(期首残高)	174,999	-
契約資産(期末残高)	-	11,285
契約負債(期首残高)	16,142	20,251
契約負債(期末残高)	20,251	20,341

契約資産は、主に請負契約において、進捗度の測定に基づいて認識した収益に係る未請求の対価に対する権利に関するものであります。契約資産は、対価に対する権利が無条件になった時点で顧客との契約から生じた債権に振り替えられます。当該契約の対価は、履行義務を充足してから1年以内に受領しております。

契約負債は、各顧客との支払条件に基づき顧客から受け取った前受金であります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度に認識された収益の額のうち、前連結会計年度の期首現在の契約負債残高に含まれていた額は16,142千円であり、当連結会計年度に認識された収益の額のうち、当連結会計年度の期首現在の契約負債残高に含まれていた額は20,251千円であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、当初に予定される顧客との契約期間が1年以内であるため、残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる期間の記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、放送、映像、サービス、不動産事業を行っており、業種別に区分された事業ごとに、当社及び当社の連結子会社が各々事業活動を展開しております。そのため、当社グループは「放送事業」「映像事業」「サービス事業」「不動産事業」の4つを報告セグメントとしております。

「放送事業」は、ラジオ、テレビの放送時間の販売と番組の制作ならびに販売を主な事業としております。「映像事業」は記録・PR映像の制作、テレビ番組の制作を主な事業としております。「サービス事業」はテレビ共聴システム設計施工、イベント企画制作、パラ園管理を主な事業としております。「不動産事業」は不動産賃貸事業を主な事業としております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	連結 財務諸表 計上額 (注)2
	放送事業	映像事業	サービス事業	不動産事業			
売上高							
外部顧客への売上高	6,674,187	522,457	754,426	129,524	8,080,596	-	8,080,596
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	89,851	289,861	168,250	480,294	1,028,258	1,028,258	-
計	6,764,038	812,319	922,676	609,819	9,108,854	1,028,258	8,080,596
セグメント利益又は 損失( )	81,302	17,302	24,936	30,054	58,881	91,140	150,021
セグメント資産	8,344,797	860,365	726,476	14,691,638	24,623,277	1,363,784	25,987,061
その他の項目							
減価償却費	750,172	23,304	6,454	294,565	1,074,497	2,515	1,077,012
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	147,699	11,144	4,613	57,232	220,690	-	220,690

(注)1. 調整額の主な内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額 91,140千円は、セグメント間取引消去247千円、当社における子会社からの収入164,160千円及び全社費用 255,548千円であります。全社費用は主に提出会社のグループ経営管理に係る費用であります。
  - (2) セグメント資産の調整額1,363,784千円には、全社資産の金額1,581,482千円が含まれております。その主なものは親会社での余資運用資金(有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、主にセグメント間取引消去、全社資産の減価償却であります。
2. セグメント利益又は損失( )は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	放送事業	映像事業	サービス事業	不動産事業			
売上高							
外部顧客への売上高	6,749,268	465,547	871,012	130,980	8,216,808	-	8,216,808
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	100,120	311,816	158,693	458,948	1,029,579	1,029,579	-
計	6,849,389	777,363	1,029,706	589,928	9,246,387	1,029,579	8,216,808
セグメント利益	230,563	5,883	26,579	72,879	335,906	85,829	250,076
セグメント資産	8,436,455	883,291	681,207	14,773,055	24,774,010	3,039,758	27,813,768
その他の項目							
減価償却費	575,703	20,771	6,259	271,523	874,258	2,528	876,786
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	333,895	4,845	1,423	612,526	952,690	103	952,586

(注) 1. 調整額の主な内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 85,829千円は、セグメント間取引消去28千円、当社における子会社からの収入154,656千円及び全社費用 240,513千円であります。全社費用は主に提出会社のグループ経営管理に係る費用であります。
  - (2) セグメント資産の調整額3,039,758千円には、全社資産の金額3,247,636千円が含まれております。その主なものは親会社での余資運用資金（有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）であります。
  - (3) 減価償却費の調整額は、主にセグメント間取引消去、全社資産の減価償却であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)TBSテレビ	1,214,338	放送事業
(株)電通	943,945	放送事業
(株)博報堂DYメディアパートナーズ	785,149	放送事業

当連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
(株)TBSテレビ	1,260,714	放送事業
(株)電通	1,066,294	放送事業
(株)博報堂DYメディアパートナーズ	780,163	放送事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	40,263円80銭	42,567円37銭
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額( )	23円36銭	676円87銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失( )(千円)	14,016	406,126
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失( )(千円)	14,016	406,126
普通株式の期中平均株式数(株)	600,000	600,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	180,000	180,000	0.48	-
1年以内に返済予定の長期借入金	5,004	5,004	0.49	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	12,887	7,883	0.49	2025年 ~2026年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	197,891	192,887	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年内返済予定のものを除く)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	5,004	2,879	-	-

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,922,884	3,241,548
有価証券	99,330	200,420
未収還付法人税等	27,094	9,938
その他	5,418	9,859
流動資産合計	3,054,727	3,461,766
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,445,189	8,109,191
減価償却累計額	1,771,638	1,810,335
建物(純額)	6,673,551	6,298,856
構築物	838,387	875,625
減価償却累計額	476,987	475,591
構築物(純額)	361,399	400,033
機械装置及び運搬具	109,864	110,274
減価償却累計額	58,288	75,411
機械装置及び運搬具(純額)	51,576	34,863
工具、器具及び備品	1,735	4,733
減価償却累計額	256	800
工具、器具及び備品(純額)	1,478	3,933
土地	4,558,949	4,690,212
建設仮勘定	2,475	-
有形固定資産合計	11,649,430	11,427,899
無形固定資産		
ソフトウェア	5,147	2,452
無形固定資産合計	5,147	2,452
投資その他の資産		
投資有価証券	1,214,955	2,705,594
関係会社株式	7,773,609	7,273,609
入会金	50,380	47,380
貸倒引当金	34,950	32,710
投資その他の資産合計	9,003,994	9,993,873
固定資産合計	20,658,572	21,424,224
資産合計	23,713,300	24,885,990

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当事業年度 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	15,825	24,589
未払費用	4,193	3,773
未払消費税等	37,304	28,784
前受金	72,000	-
前受収益	8,137	9,873
預り金	2,497	2,539
流動負債合計	139,957	69,560
固定負債		
繰延税金負債	182,416	496,522
長期前受金	234,218	234,335
役員退職慰労引当金	90,587	75,750
固定負債合計	507,223	806,607
負債合計	647,180	876,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,000	300,000
利益剰余金		
利益準備金	75,000	75,000
その他利益剰余金		
配当準備金	150,000	150,000
特別積立金	150,000	150,000
別途積立金	15,000,000	15,000,000
繰越利益剰余金	7,150,859	7,398,473
利益剰余金合計	22,525,859	22,773,473
株主資本合計	22,825,859	23,073,473
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	240,260	936,348
評価・換算差額等合計	240,260	936,348
純資産合計	23,066,119	24,009,822
負債純資産合計	23,713,300	24,885,990

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業収益		
経営指導料	164,160	154,656
不動産賃貸収入	609,819	589,928
関係会社受取配当金	150,400	150,400
営業収益合計	1,924,379	1,894,984
営業費用		
不動産賃貸費用	579,764	517,049
一般管理費	255,548	240,513
営業費用合計	1,285,312	1,257,563
営業利益	89,066	137,421
営業外収益		
受取利息	24	36
有価証券利息	1,404	10,728
受取配当金	23,136	24,962
雑収入	3,681	787
営業外収益合計	28,247	36,514
経常利益	117,313	173,936
特別利益		
固定資産売却益	-	3,163,082
特別利益合計	-	163,082
特別損失		
固定資産除却損	4,123	4,7325
ゴルフ会員権評価損	990	750
投資有価証券評価損	92	12
事務所移転費用	35	4,412
特別損失合計	1,241	12,500
税引前当期純利益	116,072	324,518
法人税、住民税及び事業税	4,720	22,700
法人税等調整額	18,690	9,204
法人税等合計	13,970	31,904
当期純利益	130,042	292,613

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	利益剰余金					利益剰余金合計
		利益準備金	その他利益剰余金				
			配当準備金	特別積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	300,000	75,000	150,000	150,000	15,000,000	7,050,816	22,425,816
当期変動額							
剰余金の配当						30,000	30,000
当期純利益						130,042	130,042
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	100,042	100,042
当期末残高	300,000	75,000	150,000	150,000	15,000,000	7,150,859	22,525,859

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	22,725,816	229,399	229,399	22,955,215
当期変動額				
剰余金の配当	30,000			30,000
当期純利益	130,042			130,042
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		10,860	10,860	10,860
当期変動額合計	100,042	10,860	10,860	110,903
当期末残高	22,825,859	240,260	240,260	23,066,119

当事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	利益剰余金						利益剰余金合計
		利益準備金	その他利益剰余金				繰越利益剰余金	
			配当準備金	特別積立金	別途積立金			
当期首残高	300,000	75,000	150,000	150,000	15,000,000	7,150,859	22,525,859	
当期変動額								
剰余金の配当						45,000	45,000	
当期純利益						292,613	292,613	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	247,613	247,613	
当期末残高	300,000	75,000	150,000	150,000	15,000,000	7,398,473	22,773,473	

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	22,825,859	240,260	240,260	23,066,119
当期変動額				
剰余金の配当	45,000			45,000
当期純利益	292,613			292,613
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		696,088	696,088	696,088
当期変動額合計	247,613	696,088	696,088	943,702
当期末残高	23,073,473	936,348	936,348	24,009,822

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの.....時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等.....移動平均法による原価法

(2) 貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～50年

機械及び装置 5～6年

工具、器具及び備品 5～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員退職慰労引当金

役員に支給する退職給与に充てるため内規に基づく期末退職一時金要支給額の100%を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は子会社への経営指導を行っております。当該履行義務は毎月の役務提供に応じて充足されると判断していることから、毎月の役務提供に応じて収益を認識しております。取引の対価は履行義務を充足してから1か月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

(重要な会計上の見積り)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	794,854千円	764,004千円
営業費用	77,320	74,640

2 営業費用のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
人件費	198,239千円	186,787千円
減価償却費	297,261	274,219
役員退職慰労引当金繰入額	11,062	10,862
租税公課	88,528	91,078
業務委託費	143,461	108,923

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物	- 千円	80,131千円
土地	-	82,951
計	-	163,082

4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	当事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
建物	123千円	6,536千円
構築物	-	789
計	123	7,325

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
子会社株式	7,773,609	7,273,609

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 ( 2023年 3月31日 )	当事業年度 ( 2024年 3月31日 )
<b>繰延税金資産</b>		
投資有価証券評価損	23,612千円	23,616千円
ゴルフ会員権評価損	2,564	2,299
貸倒引当金	10,645	9,963
未払事業税	944	1,665
未払費用	1,277	796
役員退職慰労引当金	27,592	23,073
税務上の繰越欠損金	75,068	53,492
その他	4,052	1,207
<b>繰延税金資産小計</b>	<b>145,758</b>	<b>116,115</b>
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	72,022	53,492
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	64,531	62,622
<b>評価性引当額小計</b>	<b>136,553</b>	<b>116,115</b>
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>9,204</b>	<b>-</b>
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	105,239	410,140
組織再編に伴う関係会社株式	86,381	86,381
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>191,620</b>	<b>496,522</b>
<b>繰延税金資産(負債)の純額</b>	<b>182,416</b>	<b>496,522</b>

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 ( 2023年 3月31日 )	当事業年度 ( 2024年 3月31日 )
法定実効税率	30.5%	30.5%
( 調整 )		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.9	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	40.7	14.6
住民税均等割等	0.2	0.1
評価性引当額の増減	3.9	6.3
その他	0.0	0.0
<b>税効果会計適用後の法人税等の負担率</b>	<b>12.0</b>	<b>9.8</b>

( 収益認識関係 )

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報については、重要な会計方針「4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他 有価証券	岡山エフエム放送(株)	1,200	25,614
		(株)ホテルグランヴィア岡山	1,500	15,000
		山陽電子工業(株)	449,600	7,868
		岡山空港ターミナル(株)	170	8,500
		(株)ファジアーノ岡山スポーツクラブ	12	3,753
		岡山ネットワーク(株)	267	3,079
		武田薬品工業(株)	24,000	100,416
		(株)サンマルクホールディングス	10,000	21,720
		(株)電通グループ	26,000	109,070
		(株)TBSホールディングス	344,048	1,499,705
		(株)ちゅうぎんフィナンシャルグループ	86,000	113,047
		(株)大本組	2,772	7,013
		(株)トマト銀行	10,352	13,115
		(株)はるやまホールディングス	10,010	6,266
		(株)ロック・フィールド	14,520	24,974
		中国電力(株)	100,000	115,950
		セーラー広告(株)	19,000	6,023
		第一生命ホールディングス(株)	5,200	20,035
		東和ハイシステム(株)	2,000	3,530
		トヨタ自動車(株)	25,000	94,800
その他6銘柄	16,969	4,139		
		合計	1,148,620	2,203,622

## 【債券】

		銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他 有価証券	第22回 楽天無担保社債	200,000	200,420
		小計	200,000	200,420
投資有価証券	その他 有価証券	第1回 群馬銀行永久劣後債	100,000	99,470
		第3回 かんば生命劣後債	200,000	200,501
		第18回 三井住友フィナンシャルグループ劣後債	200,000	202,000
		小計	500,000	501,971
		計	700,000	702,391

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	8,445,189	14,007	350,006	8,109,191	1,810,335	218,096	6,298,856
構築物	838,387	76,277	39,039	875,625	475,591	35,761	400,033
機械装置	109,864	410	-	110,274	75,411	17,122	34,863
工具、器具及び備品	1,735	2,998	-	4,733	800	543	3,933
土地	4,558,949	521,308	390,045	4,690,212	-	-	4,690,212
建設仮勘定	2,475	-	2,475	-	-	-	-
有形固定資産計	13,956,602	615,001	781,565	13,790,037	2,362,138	271,523	11,427,899
無形固定資産							
ソフトウェア	13,476	-	-	13,476	11,024	2,695	2,452
無形固定資産計	13,476	-	-	13,476	11,024	2,695	2,452
長期前払費用	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	34,950	250	2,490	-	32,710
役員退職慰労引当金	90,587	10,862	25,700	-	75,750

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しています。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	-
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 無料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。
公告掲載方法	当会社の決算公告方法は電子公告とする。
株主に対する特典	ありません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1)有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第75期）（自2022年4月1日 至2023年3月31日）2023年6月30日中国財務局長に提出

(2)半期報告書

（第76期中）（自2023年4月1日 至2023年9月30日）2023年12月27日中国財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2024年6月27日

R S Kホールディングス株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
大阪事務所  
指定有限責任社員 公認会計士 堀川 紀之  
業務執行社員

### <連結財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているR S Kホールディングス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、R S Kホールディングス株式会社及び連結子会社の2024年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役としてのその他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役としての責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## <報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2024年6月27日

R S Kホールディングス株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
大阪事務所

指定有限責任社員 公認会計士 堀川 紀之  
業務執行社員

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているR S Kホールディングス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、R S Kホールディングス株式会社の2024年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

### <報酬関連情報>

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。